

巻頭言



長崎県知事 中村 法道

歴史的ゆかりやアジアとの地理的近接性を 生かしたアジア・国際戦略の推進

長崎県では、人を大切にすることを基軸に置きながら、県民の皆様が安心して、生きがいを持って暮らしていただけるような、活力に満ちた長崎県づくりを推進するため、国際関係をはじめ、さまざまな施策に取り組んでおります。

本県は、鎖国時代、海外へ開かれた唯一の窓口であったことから、多くの国内外の方々が集い、さまざまな「もの」や「文化」、「情報」が行き交うなど国際色豊かで、これらの交流を通じて発展してきた歴史があります。

こうした歴史的ゆかりを活かし、地域へ活力をもたらすため、2011年度に「アジア・国際戦略」を策定し、アジアを中心とした国・地域からの誘客促進や輸出拡大などのプロジェクトに取り組んでおります。

「長崎鮮魚」や「ながさき和牛」など、豊かな自然に育まれた長崎の食材は、人気を集め、海外の市場でも非常に高い評価を受けており、「世界へ誇る長崎ブランド」として輸出が拡大しているところであります。

2018年7月には、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されました。潜伏キリシタンが歩んだ歴史には、平和を願う普遍的なメッセージがあり、またひとつ、本県を訪れていただいた方に感動を与えられる資産が誕生いたしました。

また、現在、官民をあげて取組を進めております「統合型リゾート（IR）」の導入につきましても、地域経済の活性化に大きく寄与し、その効果は、本県のみならず、全国へ波及するものと期待されております。

国別では、中国に対しては長崎県・福建省友好県省締結35周年記念事業実施による友好交流関係の強化、韓国に対しては、2017年にユネスコ「世界の記憶」に登録された「朝鮮通信使」をテーマとした日韓両国の青少年交流の展開、さらに、17世紀の御朱印船貿易の時代から交流の歴史のあるベトナムにおいては、ベトナムでのAPEC開催の機を捉え、両国首相立会いのもと、日越交流の象徴である「御朱印船」を展示・寄贈し、市民交流の基盤となる関係を構築するなど、本県と各国との歴史的ゆかりなどを生かした取組を展開しております。

今後とも、アジアを中心とした国々との交流を推進するとともに、各国における本県の存在感高め、「国際県・長崎の再興」を図り、「人、産業、地域が輝く たくましい長崎県」の実現を目指してまいります。